

## 宇宙に親しむための、文化と先端科学を融合させたお月見イベントの取組み

Viewing the Moon - A Special Event, *Cutting-edge Science and Culture unite*

# 新井 真由美 [1]; 石橋 之宏 [2]; 今井 誠 [1]; 小川 ちひろ [1]; 小沢 淳 [1]; 境 真理子 [3]; 酒井 夕子 [1]; 櫻井 英雄 [1]; 住田 朋久 [1]; 竹内 恵 [1]; 竹下 由紀 [1]; 谷村 優太 [1]; 玉川 浩司 [1]; 千野 雅則 [1]; 寺嶋 加奈子 [1]; 富田 知宏 [1]; 橋本 裕子 [1]; 増淵 ふみ [1]; 松岡 均 [1]; 森田 菜絵 [1]; 山科 直子 [1]; 吉川 英太 [1]; 毛利 衛 [1]

# Mayumi Arai[1]; Yukihiko Ishibashi[2]; Makoto Imai[1]; Chihiro Ogawa[1]; Atsushi Ozawa[1]; mariko sakai[3]; Yuko Sakai[1]; Hideo Sakurai[1]; Tomohisa Sumida[1]; Kei Takeuchi[1]; Yuki Takeshita[1]; Yuta Tanimura[1]; Koji Tamagawa[1]; masanori chino[1]; Kanako Terashima[1]; Tomohiro Tomita[1]; Yuko Hashimoto[1]; Fumi Masubuchi[1]; Hitoshi Matsuoka[1]; Nae Morita[1]; Naoko Yamashina[1]; Eita Yoshikawa[1]; Mamoru Mohri[1]

[1] 未来館; [2] 東大・理; [3] 江戸川大学

[1] Miraikan; [2] UT; [3] none

<http://www.miraikan.jst.go.jp/>

日本科学未来館は、21世紀の新しい知を分かち合うために、すべての人にひらかれたサイエンスミュージアムである。活動の中心にあるのは先端の科学技術。これは、我々の現在を変革し、次の時代を切りひらく大きな可能性をもつ「新しい知」である。未来館では、さまざまな分野に波及するこの先端科学技術の営みを人間の知的活動という視点から捉え、私たちが豊かにする文化の一つとして社会全体で共有することを目指している。未来館のコンセプトの一つに「狭義の科学技術に留まりません。音楽も美術も演劇もスポーツも私たちの運動体を形成します」というものがある。我々は、これまでに科学と文化的要素を組み合わせたイベントを積極的に企画・運営してきた。未来館では毎年、暮らしの歳時記として親しまれてきた中秋の名月に、「未来館でお月見」というイベントをシリーズで開催している。NASAから取得した月データを館のシンボル展示であるGeo-Cosmos(ジオ・コスモス)に映したものをイベントのシンボルとし、独自のアプローチでサイエンスの視点から多様な情報を提供している。2001年7月の開館から現時点までの合計7回、月や宇宙に関するタイムリーな科学トピックを題材に、研究者によるトークイベント、ワークショップ、インターネット中継、VR(バーチャルリアリティ)展示、映像、宇宙食試食、俳句、月ツアー等、多彩な取組みを行ってきた。ミュージアムで月を感じ、知り、語ることで、新たな視点で月への思いを馳せる場を提供してきた。ここでは、科学と文化の融合という視点で、イベントの事例や成果から、先端科学情報発信拠点としてのミュージアムの機能と可能性について考察する。以下、2001年から7カ年で行ったイベントの概要を紹介する。

2001年: 夜に浮かび上がるGeo-Cosmosの「月」を背景に毛利館長、月博士・寺園氏(月探査情報ステーション)のトークイベントをインターネットで中継。また、月に関するパネル展示及び月形成シミュレーション映像を上映。ボランティア主体の子供向けワークショップ。400インチモニターや映像ライブラリーにて月に関する作品を上映。月見メニューの提供。

2002年: 月となったGeo-Cosmosの下で、月博士による最新の月科学に関するトークイベントを実施。お月見団子セットを特別に提供。

2003年: 月博士による中秋の名月にちなんだ月の文化的話題から科学的話題を提供。また館全体からイベントを盛り上げるため、館内各所に月パネル展示を展開。

2004年: 人類が月に降り立って35周年。この節目に有人宇宙飛行に焦点をあてたトークセッションやお月見ツアー、月に関する映像及びパネル展示を実施。併設イベントとして宇宙開発フォーラムによる宇宙法や宇宙ビジネス、宇宙開発政策ワークショップ等を実施。

2005年: 5年目となり、イベント内容も充実化。8月に再開されたスペースシャトル計画「STS-114」ミッションや、民間企業による宇宙旅行に焦点をあて、「いまできる宇宙への旅」を紹介。Geo-Cosmosのお月見特別実演や、月探査ツアー、4D2U、パネル展示、月にまつわる6つのお話、SPACE ADVENTURES 日本事務所ゼネラル・マネージャー横山氏によるトークセッション等を実施。

2006年: 月の裏側を巡るツアーをはじめ、2007年打ち上げ予定の月周回衛星SELENEの紹介。月の隕石の展示、月の形成の謎に迫る最先端の研究成果を4D2Uで紹介。ドームシアター特別上映、月旅行の疑似体験ができる大画面映像上映等を展開。

2007年: 月全体を観察するツアーをはじめ、宇宙航空研究開発機構により2007年に認証された「宇宙日本食」の試食会や、9月に打ち上げが予定されている月周回衛星かぐや(SELENE)に関するトークイベントを開催。全天周映画「宇宙エレベータ」を親子で鑑賞後、監修者であるアニール・セルカン氏と語り合いながら未来のお台場を描いてみるワークショップ、月博士によるトークイベント、月を詠む俳句、4D2U等を展開した。